

## ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	山館 冬樹
主な担当科目	オペラ演習Ⅰ④, オペラ演習Ⅱ, オペラ公演実習, 合唱①, 合唱②, 合唱③, 合唱④, 合唱指導法①, 合唱指導法②, 合唱指導法演習, 指揮法Ⅰ, 舞台表現演習①, 舞台表現演習②, 舞台表現演習③, 合唱特別演習①, 指揮法特別演習, 音楽教養表現Ⅰ
シラバス	<a href="#">ここをクリック（本学WEBシラバス・科目検索ページにリンクします）</a>
2021年の教育目標・授業に臨む姿勢	未曾有のコロナ禍という状況におかれた2020年の経験を踏まえ、対面授業においては、感染防止対応に努めながらの授業運営に工夫を凝らすことは無論のこと、オンライン授業を迫られた際にも、柔軟に対応できるよう想定しつつ臨みたい。とはいえ試行錯誤の状況は免れないであろうことを認識した上で、担当授業の大概は、多人数による実技をともなう内容であることから、学生の理解と協力を得ながら進めていきたいと考えている。
2021年の教育に関する自己評価	対面で始まった2021年も、コロナの感染状況を見ながらの授業運営となり、途中オンライン授業の期間もあったが、前年の経験を活かし学生の理解も得て、大きな支障・混乱もなく進捗することができたと捉えている。担当授業の中には本学の対外的演奏公演にかかわる科目があり、中止に追い込まれたことによる代替のため、大幅な内容変更を迫られたが、やはり学生の理解と教員・職員の連携により、形あるものにすることができたことは良かったと評価したい。
2021年のFD活動に関する自己評価	依然コロナ禍の状況の中にあっただが、前年の経験を踏まえ、全体会および学内組織でのFD研修の中で、冷静にそれぞれのテーマについて考えることができたのではないかと捉えている。また、それぞれの教員間で横断的に情報を共有し合える機会は、平時においても重要であることをあらためて意識され、今後に活かす場となっていると感じている。
授業改善のために取り入れた研修内容	担当授業は、だいたいが大人数の学生が履修する実技科目であることから、全体の中で学生個々を把握することは難しいことではある。しかし、常に多様な学生の存在の意識を持つことが、授業を進める上でも重要と考えることから、様々な学生の情報、教員の考えを出来得る限り共有できることが授業運営に役立っていると考えている。

### 1) 評価結果に対する所見

コロナ禍下という状況も2年目となり、教員も学生もその対応を学習し慣れた感はあるが、依然不自由も感じている。2021年度は対面で始まったものの、夏からの感染拡大の影響で後期はオンライン授業となってしまう、著しく授業運営に混乱をきたすことはなかったが、内容・日程に変更等が生じることは避けられなかった。しかしそのような状況下からみて、総合満足度が全体としてアップしていることは、コロナ禍に陥った一昨年と比較すると教員・学生双方の対応の工夫と理解が深まったと捉えたい。今後もこのコロナの状況に鑑みながら、教員・学生がのびのびと授業を共有できる日が来ることに大いに期待しながら授業運営に努めたい。また、自由記述に強い不満を持つ学生の存在が示された科目については、それも含め学生の声を真摯に受け止め、しっかりと理解が得られるよう改善に努める所存である。

### 2) 要件への対応・改善方策

学部・短大のすべての学年にまたがる科目について、学生への周知の不徹底を大いに反省するところである。特に不満が集中している主科合唱については、教員の決して本意ではない思いが、今一つ伝わっていないことが学生の理解を得られていないことと、誤解を招く要因となっている。例年、前期開始時に年間の授業運用についてのガイダンスを行い、後期にはあらためて対外公演までの授業運用確認のペーパーを配付する、授業用 SNS にアップするなどの周知を行っている。それにもかかわらず「学年で授業時間に差がある」「メサイア等選抜合唱メンバーとそうでない学生の授業回数が違う」との指摘に周知徹底の不備を認めたい。後期の途中で通常授業は終了するが、年間の授業コマ数は当然のことながら行われている。それ以降は選抜されたメンバー学生は、公演に向けての特別練習に参加することになる、というところが理解されていなかったということである。素直に反省し丁寧な説明と周知徹底に努めたい。また、選抜されなかった学生には特別練習の見学を許可するなど意欲のある学生に対応したい。選抜オーディションに対する不満については、合唱担当教員以外に声楽教員も加わってもらい、複数で審査にあたる対応を取ることとしたい。一方で十分に理解し授業に臨んでいる学生の存在も確かであることからすると、学生の隅々までいかに丁寧に、数度にわたって説明することが大切であることをあらためて痛感した。授業の際に確認を繰り返し、学生からの質問また意見等を拾い上げることに努めながら学生の理解を深めたい。

### 3) 今後の課題

コロナの状況がはっきりと見とおせない中で、しかしそれに惑わされることなく、いかに学生一人一人を向上に導くかということが、やはり不変的な課題であることに尽きよう。特に大人数・複数教員担当科目についてはこれまでと同様に、多様な学生を十分に認識した学生把握と適切な対応、迅速で丁寧な学生伝達とその方法の工夫、そして教員間の連携をしっかりと取りながら学修方法や学生の声を汲み上げること等に工夫を凝らすことに努めたい。教員も学生も互いに迎合することなく、有意義なぶつかり合いの中で、真の相互理解が得られるようコミュニケーション構築をあらためて目指したい。